コミュニティ活動助成

かいがや幸せのベンチプロジェクト実行委員会

群馬県前橋市

まちの止まり木、人の繋がりをつくる黄色い幸せのベンチ設置プロジェクト

2022年10月に開催した「秋のYellow Fasta」。黄色いベンチを落書きで盛り上げる

団体設立経緯

ある高齢者が近所のコンビニがなくなって外出に消極的になった結果、足腰が衰え要介護度が上がってしまったケースがありました。地域包括支援センターの職員は地域で解決策を検討していましたが、その最中に新型コロナウイルスによる外出自粛がスタートしてしまいます。高齢者が気軽に外出する機会をどう確保したらよいか――センター職員の呼びかけに、地域の様々な職種の人々が応える形で団体設立に至りました。

活動概要と活動対象範囲

人口2万8000人を擁する前橋市桂萱（かいがや）地区を対象に、以下[1][2][3]の観点から、幸せの黄色いベンチを「まちの止まり木」とし、地域の人と人をつなぐ活動を進めています。

[1]幸せの黄色いベンチの設置：寄付の呼びかけ、製作ボランティア参加の呼びかけ、マップ作成

[2]幸せのベンチを介した交流イベントの開催

[3]幸せのベンチの利便性の向上：救急支援の仕組み、Wi-Fiの仕組みの整備・構築

活動に至った理由や背景

地域の高齢者へのアンケートでは、①買い物 ②通院 ③健康維持の3点が将来の不安要素として挙がりました。高齢になると移動に関する問題が多くなる一方、地方都市では公共交通の改善には時間がかかります。頼る人がいなければ、必然的に杖や歩行器を使って自分の足で歩くのが基本となります。しかしながら、移動途中に休憩場所がないと、出かけることもままなりません。こうした課題を地域の負担なく解決したい――本プロジェクトは、活動全体のコンセプトカラーとして黄色を掲げ、そうした高齢者の抱える課題を解決することをミッションとしています。

ベンチの設置位置を示したマップ。桂萱エリアを中心として80基以上を配置している

活動内容と成果

2022年度助成を受けて実施した活動は以下（1）～（5）です。

（1）防犯・防災機能の付加

幸せのベンチ付近で、犯罪防止や体調異変などで110番や119番に緊急で通報したい場合に、幸せのベンチを目印に通報できるシステムを構築しました。22年7月から9月にかけて、前橋東警察署及び市消防局赤坂分署の両署員と協議を重ね、視認性や情報量の観点からご助言をいただきました。耐久性についても加味した結果、最終的に縦16.5cm×横25.0cmの白色のプラスチックパネルを採用し、表面には地区名、通し番号、住所などの情報を記載することとしました。

10月下旬から、当実行委員会スタッフが前橋東看護学校の学生の協力を得て、既存のベンチにプラスチックパネルを設置することとしました。追加分を含めて、23年2月にパネル製作が完了。これまでにベンチ47基に設置し、残る33基への設置は23年度に実施する予定です。この様子は、22年11月2日付け読売新聞の朝刊群馬版に掲載されました。

ベンチの場所を伝えやすいように、プラスチックのパネルに地区名や所在地を明記

●参加団体：当実行委員会／前橋東警察署／前橋市消防局赤坂分署／前橋東看護学校

（2）黄色いエコバッグ活動（買い物支援活動）の実施

上毛電鉄江木駅周辺にある市営住宅に入居する高齢者を中心に呼び掛け、幸せのベンチをまちの「止まり木」として活用しながら買い物を支援するイベントを、22年5月と6月の計2回実施しました。イベント参加者には、幸せのベンチと連動する形で製作した「黄色いエコバック」を進呈し、当実行委員会スタッフと前橋東看護学校の学生が買い物に同行しました。

参加者に配布した「黄色いエコバック」は視認性が高く、すぐ脇を通行する自動車からも目立つため、ベンチからベンチを移動する高齢者にとっても、安全確保の面で効果がある旨の報告がありました。

●参加団体：当実行委員会／前橋東看護学校／桂萱地区社会福祉協議会

（3）Wi-Fi機能の付加

ベンチの利用者が気軽にWi-Fiを利用できるようベンチ周辺の通信環境を工夫し、ベンチの利便性を高めることを目指しました。高齢者のデジタルデバイド問題は、スマートフォンなどの電子デバイスの操作方法に関する課題と、Wi-Fi環境などの通信環境に起因する課題があります。このうち通信面の課題をクリアするために、「**ベンチWi-Fi**」の導入を進めました。

目じるしの黄色いエコバックで高齢者の買い物に付き添う

協賛店舗や協賛事業所の配置するベンチのうち、建物との距離が10m以内と比較的近く電源確保が可能な場所として、あそか会館、喫茶店、桂萱公民館の3カ所をピックアップしてWi-Fi導入を検討しました。喫茶店は経営上の都合により導入を見送りましたが、あそか会館と桂萱公民館の2カ所はWi-Fiを導入し、利用開始となりました。

●参加団体：前橋市桂萱公民館／あそか会館（前橋あそか会）

（4）幸せのベンチ活動の活性化に向けたYellow Festa開催

黄色イベント活動の活性化に向

「秋のYellow Festa」ではベンチの設置協賛者が思い思いの企画を実施（左）するのと合わせて、ぐんまフラワーパークでのPRイベントも開催した（右）

けて「**Yellow Festa**」を開催しました。このイベントは、外向けの活性化・情報発信のための「秋のYellow Festa」と、内なる活性化・情報発信のための「春のYellow Festa」の2本立てで進めました。

①秋のYellow Festa

秋のYellow Festaでは、ベンチ協賛者による各地でのPR企画と、音楽によるPR企画の2方向で事業を進めました。

「各地でPRイベント」では、各ベンチ協賛者が自ら活用方法を考えることにより、ベンチネットワークとしての一体感を高めたことに加え、専用マップによる情報発信の結果、ベンチの存在感を高める効果がありました。

【各地でPRイベント】

期間：2022年10月22日～30日
場所：幸せのベンチの各設置場所
内容：ベンチ協賛者による、ベンチごとに異なるオリジナル企画

【音楽でPRイベント】

日時：2022年10月29日10時～16時
場所：ぐんまフラワーパーク
内容:公募による10組の音楽グループによるステージ発表

●参加団体：当実行委員会／ベンチ協賛者／地域音楽グループ／前橋東看護学校／社会福祉団体／桂萱地区社会福祉協議会

②春のYellow Festa

春のYellow Festaでは、内なる活性化と情報発信を目指し、発足から3年が経過する「幸せのベンチプロジェクト」について、活動の過去・現在・未来を語るシンポジウムを開催しました。次項のノウハウ蓄積とも連動させながら、ベンチを中心につながった地域、企業、学生、地縁団体など、それぞれのストーリーを共有する場として開催しました。

【幸せのベンチ発表会（シンポジウム）】

日時：2023年3月5日10時～13時
場所：Zoomによるオンライン開催
内容：登壇者[1]の基調講演（30分）の後、登壇者[1]-[4]のパネルディスカッション（55分）、最後に、登壇者4名とZoom参加者によるフリートークセッション（50分）を実施しました

●登壇者と報告タイトル

[1]幸せのベンチプロジェクト実行委員会　森下達也氏「**『幸せのベンチ』のこれまでとこれから**」
[2]株式会社ヘルシーミルク　富澤雄二氏「**ラジオ体操や買い物支援**」
[3]しかの家　鹿野華代子氏「**東京都北区十条で居場所づくりを展開**」
[4]株式会社ジンズ　白石将氏「**企業が創る公共**」
コーディネーター：当実行委員会三俣和哉氏

●基調講演の概要

・幸せのベンチの基本的機能は「まちの止まり木」です。まちにとって、具体的な効果として、①移動の中継地点、②集いの場、③見守りの3点が期待されます。①は出かける動機付けに、②は世代間交流に、③は住民の意識付けにつながると考えています。地域包括支援センター桂萱では「幸せのベンチ活動」を国の進める共助社会に向けた生活支援体制整備事業の一環と位置付け、**黄色でツナガルプロジェクト（幸せのベンチ×黄色いリボン×黄色いエコバック）**とした独自の取り組みを推進しています。

・ベンチ製作・塗装ワークショップに協力いただいている大胡中学校

23年3月「春のYellow Festa」でのシンポジウム

活動の内容をまとめたストーリーブックを作成。他地区への展開の際などに活用する

ボランティア部の動画報告から：
生徒談「今までは中学校のための活動が多かったけど、地域のための活動になったので、何か大きなことをやっている感じがした」
教諭談「ベンチの活動をきっかけに、まち全体が明るくなると良い」とするコメントがありました。

今後とも、多様な人や団体を巻き込みながら、誰かの小さな幸せのために、できる人ができる範囲で少しずつ協力する、幸せのベンチの活動を進めていきたいと考えています。

（5）幸せの黄色いベンチ活動の事業ノウハウの集約

活動コンセプトを正しく伝えることが重要と考え、幸せのベンチ活動のきっかけ、活動目的、関係者とのネットワーク形成の方法などをコンパクトにまとめたストーリーブックを制作することとしました。また、ベンチの設置状況が分かるようにマップも作成しました。

何のための活動であるのか明確に説明できる冊子を作成するとともに、1基あたりの寄付額とベンチに必要な資材一覧を伝えることで、収支を把握しやすくしました。また、ベンチ活動を支え得る各種補助金をリスト化し、横展開に備えました。

前橋市元総社地区では、ストーリーブックやベンチマップを用いて活動内容を理解するとともに、桂萱の取り組みを参考に事業収支を立て、赤い羽根共同募金の補助金を獲得しました。このように、他地区への横展開に備えた事業ノウハウを集約することができました。

課題と解決方策

幸せのベンチ活動では、店舗や事業所などの寄付金を原資に資材を購入し、活動ボランティアで製作のうえ納品しています。22年度にはロシア―ウクライナ問題と通貨安円安の影響で資材価格が高騰してしまいました。それまで設定していたベンチ1基あたりの寄付額では不足するため、やむを得ず5000円増の2万円に変更しました。金額の変更後も、趣旨に賛同いただける店舗や事業所は減ることはなく、順調に設置が進んでいます。

今回、助成事業に取り組むなかで、軽微な伝達事項と重要な方針決定、あるいは直近イベントのための打合せと中・長期的な活動計画の打ち合せなどが、同じLINE上で情報交換された結果、重要度の大小や時間軸の長短が入り乱れる事態となり、意思決定が混乱しました。

これまで、当会では組織マネジメントの発想が不十分であったため、一度に多くの情報が流通し、意思決定が重なる場合の対応が想定されていませんでした。こうしたことから今後、当会の法人化に向けた議論を進めるとともに、日常的にはSlackなどの情報共有ツールを活用していくこととしました。

今後の予定

幸せのベンチ発表会（シンポジウム）を開催したことで、参加者からベンチの寄付について複数の打診がありました。今回の発表会のように幸せのベンチ活動を説明し知ってもらう機会を設けることで、設置協賛者が増え、幸せのベンチの拡充につながることが実感できました。

そこで今後は、今回作成した事業説明用ストーリーブックを活用しながら一般への説明する場を増やし、協賛者の発掘につなげたいと考えています。また、当会は組織マネジメントの視点が不十分であったことから、今後、法人化の検討を進め、事業推進体制の整備に万全を期したいと考えています。

かいがや幸せのベンチプロジェクト実行委員会

2020年9月設立／メンバー数：15人／代表者：村山 良明（むらやま・よしあき）
●〒371-0002　群馬県前橋市江木町1225-1
☎027-264-0808　houkatsu-kaigaya@theia.ocn.ne.jp
www.hoxon.net/test2/index.html

私たちは、ベンチの設置を通じて気軽に人と人が繋がり、お互いが小さな幸せを感じることのできる社会づくりを目指しています。